

2009年度 FD 推進センター（全体）プロジェクト活動計画

FD 推進センター長 川上忠重

(1) 「全国私立大学 FD 連携フォーラム」開発プログラムの検討

本フォーラムは、学生の規模や多様性の面で共通の課題を抱える中規模以上の私立大学が互いに持てる力を出し合い、FD 分野において連携することを目的として、2008 年に代表幹事校を立命館大学として、関西大学、関西学院大学、慶応義塾大学、中央大学、同志社大学、法政大学、明治大学、立教大学、早稲田大学、青山学院大学、京都産業大学、甲南大学、名城大学（2009 年度 3 月現在）から構成されている。本年度は「新規任用教員を対象として FD プログラム」及び「ファカルティーディベロッパー養成プログラム」の一部が公開予定である。本学教職員及び学生に向けた「実践的 FD プログラム」の開発に向けての情報収集を行う。

(2) 「学生による授業改善アンケート」活用方法及び教員相互の評価方法の検討

「学士課程教育の構築に向けて」（H20 年 12 月中央教育審議会答申）より、FD に関する現状の課題として 7 項目があげられているが、特に、①一方的な講義にとどまり、必ずしも、個々の教員のニーズに応じた実践的な内容になっておらず、教員の日常的な教育改善の努力を促進・支援するには至っていない②教員相互の評価、授業参観など、ピアレビューの評価文化がまだまだ十分に根付いていない、の 2 点に着目した改善に向けた情報収集及び検討を「サーベイ&フィードバックプロジェクト」及び「施策開発プロジェクト」と連携しながら行う。具体的には、2009 年度から始まった「学生による授業改善アンケート」の期首、期中の実施状況を把握し、実施例及び活用例の情報収集を行う。また、授業参観については、学内教員授業の学内教員による参観が行われていたが、2007 年度からは参加数の減少により実施されていない。学外者の授業参観を含めた新しい評価方法（自己授業の分析）の検討を行う。

(3) 「学生、教職員とともに変える大学教育」の観点からの FD 活動の検討

2008 年度から、本学においても「FD 学生の声コンクール」が開催され、学生の授業に対する有益な情報が得られつつあるが、現在、直接的な授業改善には結びついていない。また、SD に関しては、プロジェクトメンバーとして、FD 活動への協力は得られているが、図書館等を除き、積極的な SD の推進は難しい面もあるのが事実である。本年度は、「FD 推進プロジェクト」及び「コミュニケーション・プロジェクト」と連携しながら、特に学生、職員の方々からの FD 推進に関する情報収集方法を検討する。

(4) 大学院における FD 活動の見直し

2008 年度に実施された、他大学での「大学院での FD 活動」の実践例を踏まえ、本学における大学院での FD 活動の見直しを「大学院委員会」の協力を得ながら行う。当面は、「学生による授業改善アンケート」の大学院版（期末のみ）の質問事項、実施形態、期首・期中アンケートの実施について検討し、また、将来、大学教育に携わることを希望している学生の FD 研修の運用についても情報収集を行う。

以上

(1) シラバス、学生による「授業改善アンケート」、GPCA の有効活用に向けた施策

- ① 授業担当教員が記入する「自己点検シート」(シラバス通りに進んだか、進まなかった場合の理由は何か、学生による「授業改善アンケート」から気づいたこと、GPCA に対する自己評価、等) を考案する。
- ② 自己点検シートの共有と活用の仕方は各教学現場に委ねられるべきことであるが、本プロジェクトとしても活用方法の具体例を考え、提示する。

(2) 大学院における FD への取り組みに向けた施策

- ① 「サーベイ&フィードバック・プロジェクト」と連携しつつ、大学院用の「授業改善アンケート」を、高度教養人育成・高度職業人養成・研究者養成等、それぞれの教育目標に即したものに改良することを検討する。
- ② 理工系大学院の卒業生に対する WEB アンケートの実施について検討する。

(3) 2008 年度から導入された GPA 制度の運用に関する検証

- ① 「サーベイ&フィードバック・プロジェクト」と連携しつつ、GPA 制度の運用状況について、事前にアンケートを準備・配布した上で、夏休み前後に各教授会等執行部へのヒアリング調査を実施し、教学現場の意見を集約する。
- ② ①の結果を踏まえて、GPA・GPCA の活用方法の具体例を考え、提示する。

(4) 「特色ある FD への取り組み」助成金の見直し

- ① 幅広い取り組みを支援できるよう、募集要項を見直す。
- ② 「コミュニケーション・プロジェクト」と連携しつつ、授業改善に熱心に取り組んでいる個々の教員に対する報奨金としての運用についても検討する。

(5) IT 関連センターや図書館との連携体制の構築

- ① 個別課題における連携は、学習教育支援プロジェクトがすでに進めている。
- ② 連携体制の枠組み作りについては、「明日の法政を創る」審議会で進められている「教育支援機構」構想と関連するので、同構想の策定作業との連絡を図りつつ検討を進める。

(6) FD 活動支援に向けた大学評価室との協議

大学認証評価項目の中には学部・大学院における FD 活動と密接に関連する項目が多いので、日常的な FD 活動実践をどのように支援すべきかについて、大学評価室と協議する。

2009年度 FD推進プロジェクト活動計画

プロジェクト・リーダー 坂本 旬

1. プロジェクト基本方針

日常的FD活動の活性化を重視するとともに、フォーラムや紀要の発行により、FD活動の共有化、業績化、広報化をよりいっそう推し進める。

2. 法政大学FDフォーラム

日時案 12月12日(土)

場所 法政大学市ヶ谷キャンパス

3. FDシンポジウム

日時案 10月10日(土)

場所 法政大学市ヶ谷キャンパス

4. ワークショップ

ワークショップ主催の主体を明確し、各教学単位やセンターによるワークショップ開催をサポートするとともに、センターまたは教学単位との共催とし、情報を集約して学内に幅広く広報する。

5. 紀要

年一回発行

①FDフォーラムとの連動を検討する。

②実務体制を強化する。

以上

(1) 「学生による授業改善アンケート」項目検討について

- ①本年度実施予定のアンケート項目については昨年度了承済みである。
- ②来年度実施予定のアンケート項目については、本年度の結果を踏まえて検討する。

(2) 「学生による授業改善アンケート」集計方法について

- ① 例年通り、各学部で5種類の方法で集計し結果を報告する。
教員個人用集計（学部、大学院）、学部別集計、研究科別集計、全学集計
- ②本年度より記名式になったため、記名式による利点、欠点の分析をする。

(3) 「学生による授業改善アンケート」集計結果の分析方法について

- ①各教学組織からの依頼により「授業改善アンケート」を個別に集計し、分析方法の具体例を検討する。
- ②GPA、GPCA 導入に伴い、各教学組織と連携し「授業改善アンケート」と GPA、GPCA とのクロス集計の方法について検討する。
 - ✓各教学組織にヒアリングを行う。
 - ✓GPA に対する（グループ毎）「授業改善アンケート」評価の違いを分析する。
 - ✓同一教員の大学院での評価と学部での評価の違いを分析する。
 - ✓その他の分析をする。
- ③以上は、「施設開発プロジェクト」と連携して実施する。

(4) 「学生による授業改善アンケート」のWEB化について

- ①プロトタイプ的设计をする。
- ②実証実験を行う。
- ③授業支援システムとの連携を検討する。

以上

1. 2009年度コミュニケーション・プロジェクト・メンバー

- 阿部 真弓 (文学部日本文学科・留任)
- 大嶋 良明 (国際文化学部国際文化学科・新任)
- 小林ふみ子 (キャリアデザイン学部・新任)
- 杉原 真実 (学務部教養担当・新任)
- 鈴木 靖 (国際文化学部国際文化学科・留任・リーダー)

2. 2009年度活動計画

(1) 第二回 FD 学生の声コンクールおよび座談会の開催

- ・ 昨年度の第一回に続いて、今年度も第二回の FD 学生の声コンクールを開催する。テーマは「私が選んだすばらしい授業」および「自由課題」。やる気が出た授業など具体的なテーマを挙げて、学生から見たすばらしい授業とは何かを考え、授業改善に役立てたい。
- ・ コンクールとは別に座談会を開き、学生の声を集める。

(2) 『FD ハンドブック』および『学習支援ハンドブック』の改訂

- ・ 『FD ハンドブック』の内容を更新するとともに、新たに初年次教育の運営の工夫やすぐれた実践例などを追加する
- ・ 『学習支援ハンドブック』に校歌をのせて法政マインドを醸成したするなど内容を充実させ、初年次教育の副教材としても使えるものにする
- ・ 『学習支援ハンドブック』に第二回 FD 学生の声コンクールの入賞作品を掲載し、学生の視点を取り入れた授業改善を提案する

(3) 課題解決型の授業改善コンクールを開催

- ・ 授業改善の課題を取り上げ、その解決のための提案を募る
- ・ 応募資格は本学の教職員・院生・学生
- ・ 最優秀賞および優秀賞には、賞金のほか、『法政大学教育研究紀要』に研究成果を発表することを条件に、その提案を実現するのに必要な研究助成金を支給する
- ・ 課題は「大規模授業の出席管理と資料配布の省力化」「単位制度の実質化」、「外国語教育の効率化」などを計画
- ・

(4) 兼任教員を対象とした「授業環境改善のための要望書」の実施

- ・ 今年度から毎期末に実施することになった、兼任教員を対象とした「授業環境改善のための要望書」について、その活用方法を検討する

1. Net2010における授業・学習支援システムの基本仕様の作成

Net2010 授業・学習支援システムの更新については、廣瀬総合情報センター長からの要望を受けて、FD 推進センターが中心になって、進めていくことが確認されている。今期は、今後の法政大学全体の Net2010 授業・学習支援システムの整備のために、必要なコンセプトの確認とヒアリングやアンケートによる教学単位からの意見徴収、他大学の事例把握を通して、授業・学習支援システムの基本仕様を作成する。

これについては以下の点に配慮する。

- ①FD 推進センターの基本理念や方針との整合性を踏まえること
- ②法政大学の IT 戦略理事諮問に対する総合情報センターの答申を踏まえること。
- ③授業支援だけではなく、学習支援環境の整備を考慮すること。具体的には図書館が中心になって進めている学習支援プロジェクトおよび図書館の次期システム更新との整合性や連携を考慮する。
- ④サーベイ&フィードバックプロジェクトと連携して、Web シラバスなどの既存のシステムについての課題も同時に検討を行い、次期システムの仕様に取り入れる。

2. オープンコースウェアの推進

情報メディア教育研究センターが主導しているオープンコースウェア（註1）を FD の一環として全学的に推進する条件の整備を進める。計画については情報メディア教育研究センターから提起されたものを、各教学単位で検討・採用されるように条件整備を整える。

また、従来学習教育支援プロジェクトが進めてきたネットへの授業公開コンテンツもオープンコースウェアとして組み入れることや、機関リポジトリとの連携などの可能性についても検討を進める。

3. 学習支援としてのピアサポート制度の推進

昨年度アンケートを行った成果を生かしつつ、さらに図書館が新たに始めた「学習アドバイザー制度」などの試みを勘案しつつ、学内のピアサポート（註2）制度の事例や成果を大学全体で共有できるよう、企画推進プロジェクトと共同しながら、紀要への紹介や、シンポジウムなどを通じて広報するなどの方策をとる。

註1 オープンコースウェア

日本オープンコースウェアコンソーシアム(JOCW) (<http://www.jocw.jp/>)によると、「大学で正規に提供された講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動」のことである。JOCW の解説によると、2004年にMITから日本の主要大学にOCW活動が紹介され、日本での実践が推奨されたことを受け、複数の大学でOCWに準拠した講義公開の準備を進められ、2005年5月13日にJOCWが発足した。現在では早稲田、慶応、明治をはじめ、16の大学が加盟している。

註2 ピアサポート制度

学生同士の支援制度のことをいい、法政大学では学生センターが「『学生の力』を活かした学生支援体制の構築」プログラムとしてピアサポート制度を推し進めている。(2007年度文科省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」採択)